

江南保健所こどもだより

びほくの輪 プチ ~petit~

第4号 令和6年3月発行

<発行元>

愛知県江南保健所

江南市布袋下山町西80

0587-56-2157

1 令和5年度 長期療養児・家族交流会 開催

☆令和6年1月30日、小児慢性疾患をもつお子さんのご家族を対象に、長期療養児・家族交流会を2年ぶりに開催し、8名の方が参加されました☆

講演 「子どもの自尊感情を高め、自立を促す親の関わり方について」

講師 名古屋市立大学大学院医学研究科 こころの発達医学 寄附講座教授 永井 幸代 氏

○叱り方・怒り方のポイント：①自分が自分に怒っていないか、②無駄に叱ってしまったら謝る、
③言葉を簡潔に短く、④口調は淡々と。

○間違えてはいけないのは、全否定しないこと。一つの行為を取り出し、何がいけないのか説明する。

○ほめ方・励まし方のポイント：一人の人として、尊敬の念をもって子どもに合わせる。

○子どもを条件なしで受け入れる。①子どもは他人ではないけど別の人、②失敗もよい経験として子どもを見守る、③子どもの気持ちを大切にする、④話を最後まで丁寧に聞く、信じる、考えさせる、認めることが大切である。

○子どもとよい関係性が築け、子どもの心が健康に育つと自尊感情が育つ。子どものやる気を生み出す好循環、SOC(首尾一貫感覚)※が育つなどをお話していただきました。

※SOC(首尾一貫感覚)とは…自分の人生に対して納得できているという充実した感覚

参加された方々の声

「試行錯誤を繰り返して過ごせば大丈夫ということがわかった。」

「子育て全般に言える話を聞いてよかったです。」

「距離感が人それぞれ、子もそれぞれということがわかった。」

「子どものその時々にあった精神的距離の大切さが参考になった。」

などの声がありました。



交流会

☆年齢別に2グループ(①就学前と②就学後)に分かれて行いました☆

①就学前のグループでは、お子様の成長に伴う関わり方に関する悩みや不安について、経験談を交えながら話す様子が見られ、②就学後のグループでは、本人の病気への理解や、周りのお友だちに病気をどのように伝えるかなどの悩みについて話す様子が見られました。

参加者の声には、「子育ての再確認ができた」、「他の方とお話できてよかった」、「どんな子にもレジリエンス(回復する力)や伝えようとする力が備わっていると聞いて安心しました」などの感想がありました。

2 あいち医療的ケア児支援センターの紹介



愛知県は、「医療的ケア児及びそのご家族の方の日常生活をお住まいの地域から支えていく」をコンセプトに、県内の中核的機能を持つ県直営の医療的ケア児基幹支援センター(地域支援センター兼務)と県委託の6つの医療的ケア児地域支援センターを、令和4年度に設置しました。

活動地域(13市町)

あいち医療的ケア児支援センターは、尾張北部・東部圏域(13市町)を担当する県直営の医療的ケア児支援センターです。他の6つの地域支援センターと連携しながら活動をしています。

☆尾張北部

犬山市、江南市、岩倉市、大口町、扶桑町、

春日井市、小牧市

☆尾張東部

瀬戸市、尾張旭市、豊明市、日進市、

長久手市、東郷町

主な業務・活動

1. 相談窓口

(電話、来所、お問合せフォーム)

☆入園、入学、日常生活の心配ごと

“一緒に考え、地域の支援者に繋がります”

2. 人材の育成(研修)

☆支援者研修(保育・教育・看護等)

☆保育園、市町村等への訪問研修

3. 情報収集・発信

☆54市町村調査(県内情報収集)

☆<https://aichi-iryocareji.jp/>

4. 関係機関連携

☆担当圏域市町村会議への参画

☆関係機関とのネットワーク作り

※医療・福祉の連携構築など

☆愛知県医療的ケア児支援部会出席

センターの想い



医療的ケア児とそのご家族、支援者や行政が繋がることで気づくこと、見えてくるものがたくさんあります。「誰に相談したらよいのか分からず、支援を受けることができない」ということがなく、誰もが安心して暮らせる地域となるように、橋渡しができればと思っています。

地域関係機関である江南保健所とも連携を図りながら、地域での生活を支えていきたいと考えていますので、困った時はどんなことでもご相談ください。

お問合せ窓口

電話：0568-88-0811(代表)

内線 4149

<https://aichi-iryocareji.jp/>

〒480-0392

春日井市神屋町 713-8

愛知県医療療育総合センター

療育支援センター 地域支援課内